

# 城山会会報

## 第 53 号

同窓会事務所

〒811-4192 福岡県宗像市赤間文教町 1 - 1

福岡教育大学同窓会 城山会事務局

TEL / FAX 0940-33-2211

e-mail [jouyamakai@able.ocn.ne.jp](mailto:jouyamakai@able.ocn.ne.jp)

発行者 会長 太田 勝視

発行日 令和 5 年 1 月 31 日

印刷所 松古堂印刷株式会社



<上段>福岡教育大学（ボート部、健康科学センター） <下段>附属小倉小学校（生活科-1年、小倉祇園太鼓）

### 目次

会長あいさつ .....	2
学長あいさつ・定期総会報告 .....	3
夏期研修会、大学・新卒・若手会員情報交換会、附属学校の取り組みは今 .....	4
支会活動報告 .....	5
会員に聞く、教師をめざして .....	6
わたしの教育実践 .....	7
大学時代の思い出 .....	8
第二の人生を生き生きと .....	9
教員採用試験の状況 .....	10
令和 4 年度役員組織、事業実績 .....	11
城山文藝、編集後記 .....	12

# みんなの力で、元気な城山会に！

## 同窓の絆で、助け合い・支え合って、出来ることから一歩前進

会長 太田 勝視



実に、3年ぶりの一堂に会しての総会を令和4年4月29日に開催しました。

この2年間あまり新型コロナウイルス感染の影響で本部・支部・支会それぞれに十分な活動が出来ず、もどかしい思いをしてきただけに、みんなで集い、意見交換ができたことを喜び合

いました。しかし、その喜びも束の間、その後も新型コロナウイルスの収束が一向に見通せませんでした。

それでも本部活動としては、コロナ禍以前の同窓会活動の回復を期して、5月には幹事会、支会幹事長会を実施しました。総会以降の本部事業は、年間計画に則り予定通り進めてきたところです。但し、新年の会につきましては、規模が大きく、様々な機関への影響を勘案し再度の延期としています。

年度途中ではありますが、各地区の活動の状況を振り返ってみます。対面での支会総会実施が7支会、研修会実施が5支会ありました。支会総会等の中で、支会の実情に合わせて新規採用者の紹介と記念品配付も行われていました。特に研修会では、若い人の参加が30～60名と多く青年部の意欲を感じました。厳しい状況の中で、このように一歩前進した取り組みは、同窓会活動をコロナ禍以前に戻し、城山会全体の再活性化につながることで会長として感謝しています。また、支会総会は出来なくても、広報部が作成している「城山会会報」は、同窓会や大学の状況の周知と会員相互の絆や情報共有等を図る機能があることから、その配付は実態に合わせて実施さ

れています。

各県支部活動につきましては、平成30年度の大分県支部発足に続き、西日本各県を中心に支部の拡大を目指してきましたが現状のままです。また各支部総会、研修会等も実施出来ていません。本部では、年度内に支部交流会や支部訪問を計画し、日程調整を行っているところです。

母校教育大においても大変な状況を乗り越え、現在は殆ど対面授業に戻っています。対面と遠隔を組み合わせたハイブリット授業やハイフレックス授業を採り入れる等の工夫もされています。

本学の教員採用試験の合格者状況については、近年高い合格実績を上げています。令和4年3月の卒業・修了生は、正規の合格者数が404名で全国1位、教員就職率は全国2位と聞いています。大学改革についても、令和5年度の入学生より学位プログラム制を導入し、複数の免許取得が可能となります。また教育現場の教員研修支援の充実等も進められています。同窓会としては引き続き積極的に支援をしてまいります。

終わりに、城山会は平成2年の四者完全統合以来、本年で33年目を迎えました。長い歴史を振り返ると、私たちの母校、そして同窓会は、時代によって名称は変わってきました。私たちは、教育に関わる者を育ててきた学び舎の卒業生であるという誇りと、その時々結んだ同窓の絆を大切に、新しい伝統を創造する城山会をつくっていかなくてはなりません。これからも同窓の絆を大切に、助け合い・支え合って、出来ることから一歩一歩進めてまいりましょう。会員の皆様のご活躍とご多幸を祈念致します。

### 定期総会 報告

本年度の第47回定期総会は、4月29日11時より福岡リーセントホテルにおいて開催されました。新型コロナウイルス感染症の流行により第45回定期総会(令和2年度)、第46回定期総会(令和3年度)は一堂に会することを避けて書面会議となっていましたので、3年ぶりに懐かしい仲間と出会い、マスク越しではありましたが再会を喜び合いました。例年の出席者数は120名程度でしたが、本年度は社会的状況により90名の参加となりました。

議事は第1号議案から第5号議案まで原案通り可決されましたが、本年度末の2月に予定している「新年の会」の実施については慎重を期すべき

# 教員養成の充実に向けた 大学改革について

福岡教育大学 学長 飯田 慎司



本学は、九州・沖縄地方における教員養成の拠点大学として、生涯にわたり学び続ける有為な教育者を養成するという基本理念のもとで、教員養成の充実を期しております。

まず、学修者本位の教育を実現するために令和5年度入学生から適用する学生組織改革、学位プログラムの中で各課程の主専攻に加えて〈選択領域〉を設定して学生の多様性に応じるカリキュラム改革、そして入学者選抜をプログラム単位で実施して学位プログラムの円滑な履修を可能にする入試改革を実施します。このような改革の成果として体系的に再構築した学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）及び入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）のもと、学部・大学院の教育を行い、恒常的にその評価・改善を実施します。また、正課外活動としても、「学生ボランティア活動認定システム」による、学校や保護者、地域と協働して活動することができる資質・能力の向上を図っております。

教員就職の状況についてご報告しますと、令和3年3月卒業生の（正規採用に加えて臨時的任用も含めた）教員就職率は卒業者数200名以上の教員養成大学・学部の中で第1位でした。また、教員就職率70%以上の教員養成大学・学部の中で教員就職者数

第1位（446名）でした。（令和4年2月文部科学省発表）令和4年3月卒業生もコロナ禍を乗り越えて教員就職者数450人となっており、同程度の水準を維持しています。

また、令和7年度の県立特別支援学校の本学キャンパス内の設置に関しては、福岡県、宗像市及び本学との連携体制を整備し、先導的な特別支援教育の実現を目指しております。

Society5.0時代の到来を見据えた中長期的な改革と、コロナ禍で前倒しされたGIGAスクール構想に対応するICT教育の進展という短期的な改革が、今日の教育界には求められてきていますが、初等・中等教育段階におけるこれらの改革を下支えしていくのが、高等教育、とりわけ教員養成教育であると考えます。

本学では、教員養成の充実に向けて、このような大学改革を行っておりますが、去る8月7日（日）に城山会夏期研修会が本学アカデミックホールで開催され、その中で、「大学改革推進に伴う城山会への期待」と題して講話をさせていただきました。教師の魅力を発信するとともに、教員研修においても地域に貢献していくことについてお話ししました。

新型コロナウイルス感染の一日も早い収束を願いながら、教員研修を含めた教員養成の充実に向けて、本学をさらに発展させて参りますので、城山会の皆様には、本学の取り組みへのご理解、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

との声もあり、感染状況・社会的状況の推移を見ながら本部において判断するということになりました。

なお、総会当日は未だ感染状況が十分に改善していないことから、総会後の飲食を伴う懇親会は割愛し、弁当を配付するにとどめました。

※その後、役員会で検討し「新年の会」は延期となりました。

（幹事長 田中 和隆）



令和4年度

夏期研修会報告

◆研修会期日	令和4年8月7日
◆研修会会場	大学「アカデミックホール」
◆参加者人数	総計77名

本年度、夏期研修会実践報告は京築地区の「京築地区の現状と課題」、北九州市地区の「だれにとっても働きやすい学校をめざして～チームで取り組む業務改善～」でした。どちらも「組織活動のレベルアップを図る学校運営」であり、学校力を高める組織文化の形成と概括できます。

講演会は、事業部会からの推薦もあり、福岡教育大学 飯田慎司学長にお願いすることにしました。太田会長と共に講演依頼に行きました。コロナ禍の中ではありましたが、飯田学長は即決即断に快諾され、演題は「大学改革推進に伴う城山会への期待」と決められました。

講演会当日は、学長専門の数学を交え、城山会への期待を話されました。参加者からは「大学改革や数学の話、後輩の育成」についてよくわかったと好評価が聞かれる中、閉会となりました。

(本部副会長 谷 友雄)

第6回

大学・新卒・若手会員 情報交換会

新型コロナウイルス感染症の第6波が収束する中、昨年度の令和4年3月5日に「大学・新卒・若手会員情報交換会」をオンラインで開催いたしました。今回は学生24名、新卒若手会員34名の参加がありました。福岡教育大学キャリア教育支援センター長の生田淳一 副理事にご尽力いただき、多くの学生が参加しました。学生は4月から教壇に立つ4年生が大半を占めていました。また、卒業生の中には、千葉県や兵庫県など県外から参加された方もいらっしゃいました。

参加者は8つのグループに分かれて、学生からの質問をもとに交流を行いました。学生の参加者が4年生だったこともあり、各グループでは「4月までに何をすればいいのか」、「初任研は何をやるのか。」などといった質問がありました。それらの質問に対し、2年目、3年目の若手会員が、自分たちの経験をもとに真摯に受け答えする姿が印象的でした。コロナ禍ではありましたが、同窓生同士をつなぐ場を設定できたことをうれしく感じました。

本年度も、令和5年3月4日に青年部が中心となって情報交換会を開催したいと考えています。

(青年部 書記 中村 芳雄)

附属学校の取り組みは今

福岡教育大学附属小倉小学校

副校長 松本 秀樹

本校は、戦後から現在に至る70年以上もの間、「誘導」の教育理念を継承し、日々の教育活動を推進しています。

教師が学習材として取り上げたいものがあるとき、子どもがあたかも自分で見出したかのように、環境の整備、生活場所の転移、注視点の移動などによって、その方向へと学びを誘い、結果として子どもの自発に即して子ども自身が問題を取り上げたごとく学びへと誘うことが「誘導」の教育理念であると考えています。

本年度は現行学習指導要領の全面実施から3年目を迎えます。この「誘導」の教育理念を基盤として、子供達にSociety5.0の時代を生き抜くために必要な資質・能力を育む授業づくりをより具体化することが附属小倉小学校の使命であると考え、新たな研究主題の設定に取り組んでいるところです。

本年度の研究発表会は令和5年2月10日、11日に開催いたします。新たな実践を積み上げ、その成果を発信したいと考えております。城山会の皆様におかれましては、是非ご参会いただき、ご指導賜りますようお願い申し上げます。

福岡教育大学附属小倉中学校

副校長 舟津 琴

令和3年度より文部科学省委託事業「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」の研究指定を受けています。研究テーマを「自ら創造的に学ぶ力の育成～各教科固有と横断の両側面を意識したカリキュラム・マネジメントを通して～」として、研究を進めています。本年度は令和5年2月24日に成果報告会を計画し、「カリキュラム・マネジメントの手引き」を発行して、地域の中学校に配付の予定です。

子どもたちは行事を通して大きく成長します。コロナ禍で行事運営に当たり難しい面もありますが、保護者・教育後援会・同窓会等の御支援御協力を仰ぎながら、体育大会、附中祭、修学旅行の実施に向け、創造実践を図っているところです。

これからも学校教育目標「創造的実践人の育成」の実現を目指し、一人一人の生徒が主役となる学校づくりに全職員で取り組んで参ります。

## コロナ下における支会・支部の取り組み

### 出番を待つ大牟田支会旗

大牟田支会 支会長 福永 嘉治

今年度も昨年度に続き、大牟田支会として総会を中止と判断いたしました。大牟田市では、人口十一万人程度に対して、一日に百数十名が陽性になった日もあり、新型コロナウイルス感染症の猛威をひしひしと感じております。そのような中でも、先輩会員の方々のご活躍を伺っております。

そこで、先輩方の声を紹介いたします。

「健康に感謝しながらも、夏草と蚊に悩まされ、晴耕雨読の毎日です。～中略～すでに、鬼籍適齢期ですが、相変わらず老残の身は迷いの真っ只中。

『退職会・昭和も遠くになりけり』の心境です。」

「高齢になるにつれ、生活の意欲と体力がうまく調和しない。その点、文芸への意欲はペン一本で自己表現でき、体力を必要としない。最近、文芸（川柳・俳句等）への関心と吟詠への意欲は高まりつつある。」



出番を待ち望んで待機中の大牟田支会旗

また、青年部は、具体的な活動ができていないため、つながりが十分できず、新たなメンバーの把握もままならないといった状況です。

大牟田支会は、新型コロナウイルス感染症が終息し、城山会大牟田支会の交流会や研修会が開催できることを願いつつ、子供たちの安心・安全のために日々、健闘しています。

### 支会活動の活性化と事務処理の合理化

田川支会 支会長 窪田 睦朗

2020年度以降、コロナ禍により、本支会においても、総会、懇親会等の具体的な活動が一切実施できない状況が続いております。従いまして、コロナ禍以前における活動について報告いたします。

① ここ2年間ほど開催できておりませんが、若年層の教員（城山会の会員に限らず）を対象に、年一度授業研究会を開催し（授業者は、本会の中堅教員）、若手教員の資質向上を目指しています。開催の折には、毎回30名程度の参加者があり、開催後のアンケートでも、「来年もぜひ参加したい」といった積極的な意見が多数見られます。

② 先輩会員からの年会費の徴収方法についてです。多くの支会で、その方法で頭を悩まされていることと思いますが、本支会においては、退職時に『永年会費』として、一口5000円を納入していただく方式をとっております。この方法を採用することにより、毎年定額の会費納入という、事務手続きが不要となり、会計を担う幹事（現職会員が担当）の負担を大幅に減少させることができると考えます。

以上2点、少しでも参考になれば幸いです。

### 長崎県支部のこれから

長崎県支部 会長 中原 弘之

長崎県支部の活動は、コロナ禍のため現在休止中です。本県には、①県南、②県央・島原、③県北、④高校・特別支援学校の4つの支部があります。コロナの状況が落ち着いてきたら、支部全体の総会・研修会・懇親会はもとより、これらの支会の活動も活性化できればと考えています。

平成28年度に、本県出身の学生にも案内し、若手教職員の近況報告をもとに研修を深めました。その際には、平成年間卒業の中堅・若手会員も多く参加してくれました。また、少ないながらも学生の参加もありました。開催にあたって、学生の代表とも打合せをするなど綿密な計画が必要であったと反省しています。

今後は逆に、バスを連ねて大学へ行き、大学見学や赤間の地での研修会・懇親会を学生と共にできないものかと妄想を膨らませています。

在学時代に想いを馳せながら、卒業後に変貌した大学と町並みに感心しつつ、今だ変わっていない所を探して一喜一憂する会員の姿が目につきます。

本学の充実・発展を願っております。

## 会員に 聞く

### 発達障がい者の支援に向けて

福岡県発達障がい者支援センターあおぞら

センター長 公文 眞由美



現在、社会福祉法人筑陽会の発達障がい者支援センターあおぞら（八女郡広川町）でセンター長を務める公文眞由美氏〈旧姓古賀〉は、本学のOB。小学校社会科、昭和53年卒。定年後にセンター長に就任し、7年目を迎える。今日社会的に大きな関心事となっている発達障がい者への支援を担っている公文氏にその取り組みについて伺った。

**Q1 センターにおける発達障がい者への支援とはどのようなものですか。**

発達障がいの主な特徴として、コミュニケーションが苦手に対人関係がうまく築けない、行動のコントロールができにくいなどが挙げられます。センターでは発達障がい者への支援のために次の三つを柱に取り組んでいます。①本人や家族への支援 ②支援者への支援 ③啓発、研修事業の推進です。発達障がいを正しく理解し、正しく対応して頂くための具体的な支援と支援システムの構築です。

**Q2 これまでの教員生活の中での職務内容は、当センターで活かされていますか。**

学校現場では、長年通級教室を担当してきました。その中で、発達障がいのある児童の様々な事例に接し、先端の研究にもふれながら支援のあり方について多くを学ぶことができました。通級で実施していた保護者に対するペアレントトレーニングや医療機関との連携など、活かされています。

**Q3 当センターでのやりがいや今後の課題についてお聞かせください。**

保護者の子供へのかかわりや本人の自己認識の向上により、変容する姿が見えた時は喜びを感じます。課題としては本人や保護者が即効性を求め、改善への意欲が減少して継続できないケースや学校などの教育機関との連携が緒についたばかりで円滑にいかないことなどです。

**Q4 発達障がい者への支援について社会へのメッセージはありませんか。**

発達障がいのある人の生きづらさは見えにくいので理解は十分とは言えません。周りの理解と支援があれば、状況は大きく変化します。「みんな違ってみんないい」。発達障がいに関心を持ち、多様性を受け入れる豊かな社会を皆様と共につくっていただくと願っています。

<聞き手 広報部 上野>

## 教師を めざして

### 広い視野を持って

初等教育教員養成課程 3年 畑 幸奈



私は、本学で学生生活を送る上で、自らの視野を広げることを意識しています。教師自身広い視野を持って子供たちに向き合うことで、個性あふれる価値観に寄り添ったり、様々な考え方に触れる機会を与えたりすることを通して、子供たちの夢や目標を広げることができると思うからです。

具体的には、一つ一つの講義での学びを大切にすることです。本学では教科学習や教職教養など学校での指導に関わる講義だけでなく、少年院やESDに関するものなど、幅広い分野で学びを広げることができる講義があり、非常にバラエティに富んでいます。これらの講義を受けることで新たな見方・考え方に会ったり、自らの価値観を見直したりすることができ、視野が広がっていると自覚しています。

次に、積極的に課外活動に関わることです。サークルでは、管弦楽団で好きな音楽を通し同じ趣味を持つ友人と出会うことができます。また、ボランティアでは、普通学級や適応指導教室における支援を通して接し方を学んだりすることができています。コミュニティが広がり、多様な個性や価値観に触れ、協働して何かを成し遂げる楽しさを実感しています。本学でのあらゆる学習機会の中での学びを大切にすることで、自らの視野を広げる意識をもって学生生活を送ってきました。これからも、真摯に学びに向かう姿勢やチャレンジ精神を持って、全ての子供たちにたくさんの夢や目標を与え広げることができる教師になりたいです。

# わたしの教育実践

## 学校・家庭・地域の連携による学校づくり

行橋市立今川小学校 校長 金子 守久 S62卒



行橋市立今川小学校は、明治8年創立の、歴史と伝統ある、地域とともに成長してきた学校です。地域には校名にもなっている清流今川が流れ、自然に恵まれた田園地域で、理科の研究を長年推進しており、本年度が80年目となります。

令和4年度は、15学級、児童数375名、教職員数25名の体制でスタートしました。学校教育目標「自ら学び、明るく、たくましく、思いやりのある児童の育成」の具現化をめざし、本年度から学校・家庭・地域が連携するコミュニティスクールが本格的に始動しています。本年度特に力を入れているのが、「メディアコントロール」の取組です。スマホやテレビ、ゲームを使用する時間や場所等のルールや約束を家族で話し合って決め、生み出された時間を学習や運動、お手伝いや家族団欒等に有効活用するというものです。家庭や中学校と連携し、年4回の中学校の中間期末考査前（行橋市は2学期制です）の1週間を「メディアコントロールウィーク」として、取組カードを各家庭に配布し、メディアをコントロールして生み出した時間の活用について、めあてを決めて、家庭でのチェックをしています。

「テレビやスマホをただ禁止するのではなく、自分でコントロールするのはよいことだと思う。」「メディアのコントロールが定着してきて、だらだら使わなくなった。」等のコメントが保護者から寄せられており、今後も引き続き実施していきたいと考えています。

また、「マスクコントロール」にも取り組んでいます。コロナウイルス感染防止対策としてマスク着用を徹底してきましたが、始終マスク着用、熱中症予防も含めて懐疑的な声も聞こえてきます。そこで、どんな場面でマスク着用が必要で、不要なときは積極的に外すかを考えさせ、マスク着用のコントロールを身につけさせるようにしています。

コロナ禍だから縮小・我慢というマイナス思考ではなく、知恵を絞りながら、BESTが困難な状況であっても、よりBETTERなことを家庭・地域と連携しながら模索していきたいと考えています。



理科研究授業の様子

## 新聞に親しむ活動を通して

大刀洗町立菊池小学校 教諭 白木 郁江 H15卒



菊池小学校へ赴任して6年目となりました。昨年度より、司書教諭として図書館教育に携わっています。

大刀洗町では、町の図書館とも連携が図られており、学校だけでなく町の図書館の本にも触れる機会がたくさんあります。児童は、いろいろなジャンルの読み物に興味をもち、読書を楽しんでいます。

本校において、毎年課題となることは、児童が新聞に触れていないということです。家庭で読む機会がない児童が多いのが現状です。

そこで、昨年度より児童に新聞に触れる機会を作り、興味をもってもらうための取組を始めました。

毎日届く子ども新聞を図書館入り口に展示し、いつでも新聞をめくれるようにしたり、図書館便りで新聞の読み方を特集したりしました。また、新聞記事を活用したワークシートを作成し、全クラスで取り組んでもらいました。低学年では、記事の書き写しや読んだ感想を書く、高学年では、意味調べや記事を読んで自分の意見をまとめる等、学年の実態に合わせた活動を本年度も継続しています。

図書館前で新聞を読む児童や新聞記事に興味をもつ児童が増えてきたという声が聞こえるようになって

できました。しかし、新聞そのものに対して「難しそう。」となかなか自分から読もうとしない児童もまだたくさんいます。そこで、本年度担任をしている3年生で、朝の読書の時間に一齐に子ども新聞を読む時間を設けることにしました。

真剣に読みふけり、新聞を一枚一枚めぐりながら、「わあ、すごい。」と思わず声を漏らす児童が見られました。「書いてあることを友達に紹介しよう。」と呼びかけると、「見て、見て。」と進んで伝え合う姿もありました。「自分たちにも読めるんだ。」「また読んでみたい。」という感想が聞かれ、多くの児童が新聞に興味を抱いたことが分かりました。

今後はさらに、記事を読んだ感想を交流する活動等を仕組み、対話力アップも図っていききたいと思っています。

デジタルネイティブの子どもたちだからこそ、新聞から得る情報のよさも知り、様々な媒体を使い分ける力を身に付けてほしいと願っています。



新聞記事を紹介し合う様子



# 大学時代の思い出



## 大学時代の思い出

熊本県支部  
特設課程保健体育科 S54卒 岩下 佳史

大学の思い出といえば、授業もさることながら、社会人前の仲間たちとの繋がりが最高であった。焼き鳥丸ちゃん、鶴田、千吉、松尾ストアの角打ち、ちょっぴりオシャレな野バラ等々、懐かしく思われる方々も多いと思うが、多くの仲間たちと集うことの多かったこれらの場所には、卒業後43年経た今でも青春の思い出が色濃く残っている。バスケットボール部に所属していた私は、練習後に仲間たちと連れ立って食べ盛りの腹を満たし、適度な(?)アルコールでお互いの思いを語りあった。また、保健体育科の仲間たちとも互いの下宿巡りで飲み会等で絆も深まっていった。思い返せばいつも仲間に支えられて過ごした楽しい日々であった。そんな仲間たちともコロナの影響もあり、なかなか会う機会が少なくなってきたが、今でも素敵な仲間たちとの繋がりに感謝している。

## 私の教育大生活

宗像支会  
初等教育教員養成課程数学選修 H27卒 後藤 健多

「将来は野球の指導者になりたい。」そんな夢を持ち、福岡教育大学の門をくぐりました。入学してからは、硬式野球部に入り、講義、野球、バイトと、少し汗臭くも、充実した大学生活を過ごす日々でした。あの頃の遊びと言えば、ボウリング。野球部の仲間達と、昼は白球を追い、白球を投げ、白球を打ち返す。夜は光沢重たい球を投げ、白いピンを倒す。倒したピンの数では、どの部活にも、サークルにも、負けていません。また、4年生のときの学祭では、野球部の仲間達とサイコロステーキを10円で売り、ジャンケンで勝った人に松坂牛のステーキをプレゼントするという、大赤字で自己満足の来店をしたことも、良い思い出です。現在、「野球の指導者」ではなく、「小学校の先生」となりましたが、大学の4年間で経験してきたすべてのことが、今の私の原動力となっていることは、間違いありません。

## 卒論と私

柳川・みやま支会  
小学校課程国語科 S52卒 今村 田鶴子

「教員養成の専門大学で学んだという自信と誇りをもって教職に就いてほしい。」卒論を指導して下さった森田信義先生の言葉が忘れられません。

先生のご指導のもと取り組んだテーマは「話しことばの能力」。Yさんとの共同研究でした。近隣の小学校や附属小で先輩方の授業を参観させてもらい、録音した子供たちや教師の話した言葉を文字化し分析・考察する作業が18回、八ヶ月続きました。書き上げた論文は資料編まで原稿用紙600枚超、綴じると厚さが12cmになりました。内容は全くお粗末なものでしたが、やり遂げた感だけはありました。そして何より、大切なことを学びました。こつこつと努力を続けること、実践を通して考えること、授業は人間形成の場だということ。

振り返ると、これが教職の出発点でした。教育大で学ぶことができたことに感謝しています。

## 大学時代

遠賀支会  
初等教育教員養成課程国語選修 H31卒 有吉 陽

平成28年、4月。新品のスーツに身を包み、わくわくしながら入学式の日を迎えました。しかしながらその日は大雨。「ついてないなあ。」と少し残念な気持ちで福岡教育大学に向かいました。いざ入学式が始まると、近くの席には同じ初等国語科の方々が、緊張しながら話しかけたことを鮮明に覚えています。その後の学校生活では、古文や漢文など難しい課題に頭を悩まされながらも、同じ学科と仲間と助け合い、時には叱咤激励し合いながら無事卒業し、夢だった小学校教師になりました。

夢を叶えることができたのは、多くのことを優しく教えて下さった福岡教育大学の先生方、そして、いつも一緒に学び、支えてくれた仲間のおかげです。これからも福岡教育大学で学んだことや仲間との絆を大切に、教師として子供たちのために尽力していきたいと思います。



## 第二の人生を生き生きと

### 「継続は力」 - 小学校理科教師としての歩み -

嘉穂支会 S44卒 山本 穰

私は、38年間小学校理科教師として、糟屋郡同好会「とにかく会」準会員。嘉穂郡「嘉教研」部長、会長。「県小理研」筑豊地区委員、県会長等で、楽しい学校、わかる授業造りに努め、平成19年定年退職。

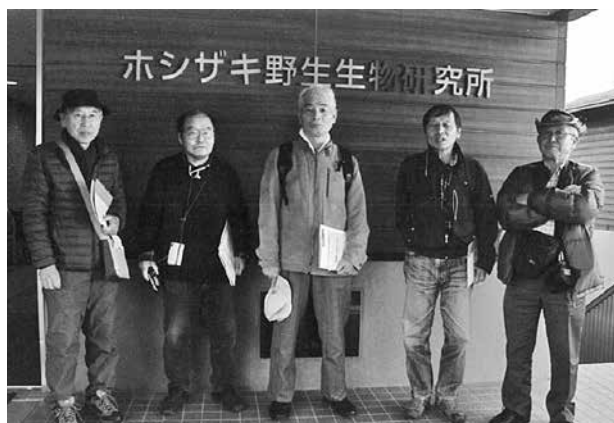
昭和53年校務分掌で、筑豊博物研究会（以下筑博研）と飯塚市教育委員会の共催行事（採集法講習会、昆虫・植物採集会、鉱物採集会、同定会に児童を引率参加。標本づくりをして採集展に出品）担当になる。昭和57年筑博研30周年事業「古処山の自然」の現地調査団員を機に入会。平成12年同会会長。

退職後は、筑博研活動に専念。平成23年嘉穂高等学校SSH事業\*運営指導委員（7年間）、平成27年顧問。現在に至る。

時のたつのは早いもので40年を経過する今も、自身に鞭打って筑博研の年間活動(1)自然観察会（年4回）(2)講習会（年2回）(3)児童・生徒作品展(4)会員研修（年3回）(5)自然環境調査（月1回）(6)会誌「筑豊博物」の発行等に没頭している。

筑博研は今年、創立67年を迎えた。「若い教師を会活動に巻き込み、理科教育を活性化させたい。」

\*スーパーサイエンスハイスクール事業



宿泊会員研修 島根県ホシザキ野生生物研究所  
中央が筆者

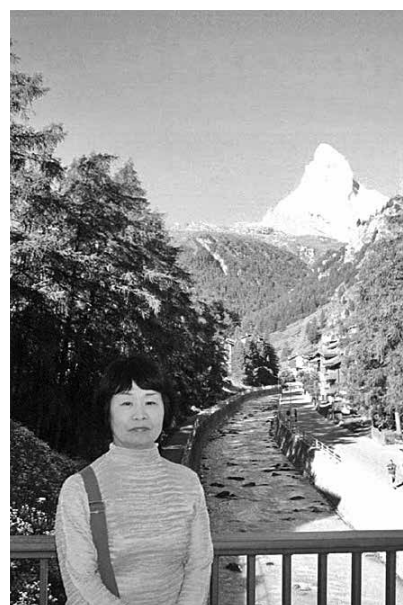
### 旅の楽しみは非日常性？

鞍手支会 S44卒 北崎 洋子

卒業して半世紀以上経ち、退職して16年目、朝のウォーキングは続けている。また、3 B体操と書道を始めた。時々近場の山に登っている。先日、10年ぶり位に標高901mの福智山に挑戦した。久しぶりの本格登山で大変だったが、無事頂上に立つことができ、自分を褒めてあげた。

退職後は、旅仲間と毎年、中国やアジア方面に出かけた。日本と違った文化や風景に触れたり、食事や買い物に興奮したり、旅の楽しみは尽きることがない。また、夫婦での旅はスイスが一番心に残っている。マッターホルンを見ながらランチをとり、氷河を真下に見て地球を感じた。登山電車を降りて、高山植物を見ながら歩いたこと、朝日が当たり赤く染まったマッターホルンを眺めたこと、小さな町の散策など、目にするものすべてが感動だった。旅の楽しみは、やはり非日常性を感じることだ。

コロナ禍で、海外は勿論、国内旅行もできず寂しい限りだが、日常生活の中に、小さな楽しみを見つけて過ごしていきたいと思っている。



懐かしい、マッターホルン

# 本学学生の公立学校教員採用試験合格状況について

福岡教育大学 キャリア支援センター

今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、試験当日は検温やマスク着用、アルコール消毒などの取組の中で教員採用試験が実施されました。本学の学生は、そのような状況においても、教員採用試験の合格に向けて真摯に取り組みました。

令和5年度（令和4年度実施）の教員採用試験の出願及び合格状況は、〔表1〕のとおりです。出願者数は例年よりも減少しましたが、結果は、入学時から4年次までの高い教員志望度を反映して、前年度に引き続き多くの合格者を出すことができました。特に、合格率は過去最高となり、教員採用試験に向けた日々の努力が実を結びました。

自治体別の合格者の内訳は〔表2〕のとおりです。昨年度と比較すると、福岡県・福岡市・熊本市が増加し、九州・沖縄地区全体での合格者数は昨年度を大きく上回りました。特に、福岡市の増加が際立っています。

〔表1〕 令和2年～令和4年度実施公立学校教員採用試験の校種別合格状況

令和4年11月7日現在

実施年度	小学校				中学校				高等学校				特別支援学校				合計				
	出願者数	1次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	出願者数	1次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	出願者数	1次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	出願者数	1次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	出願者数	1次合格者数	最終合格者数	合格率(%)	合格実人数
R4	397	368	319	80.4	115	101	71	61.7	67	32	16	23.9	36	33	30	83.3	615	534	436	70.9	405
R3	392	371	312	79.6	133	112	77	57.9	68	41	15	22.1	53	51	36	67.9	646	575	440	68.1	405
R2	369	346	283	76.7	143	105	71	49.7	76	33	13	17.1	70	62	48	68.6	658	546	415	63.1	380

- (注1) 出願者数: 併願を含む
- (注2) 最終合格者数: 複数合格を含む
- ※令和2～4年度の数値は、各年度の同時期(11月頃)の状況
- ※各数値は、教育学部生、大学院生、教職大学院生、特別専攻科生の状況

〔表2〕 自治体別公立学校教員採用試験合格者内訳

令和4年11月7日現在

	九州・沖縄											小計 (九州・沖縄)
	福岡県	北九州市	福岡市	佐賀県	長崎県	熊本県	熊本市	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	
R4 実施	160	46	111	10	11	8	13	5	5	16	4	389
R3 実施	153	53	74	10	18	18	6	7	12	16	5	372
R2 実施	169	69	54	19	15	10	9	10	11	5	2	373

	山口県	広島県・市	岡山県・市	島根県	香川県	愛媛県	高知	神戸市	静岡県	横浜市	他	合計(全国)
R4 実施	9	20	4	0	2	3	1	0	0	1	7	436
R3 実施	11	17	4	4	1	9	1	2	3	3	13	440
R2 実施	12	17	2	1	1	2	1	0	0	2	4	415

※延べ人数

令和4年度 役員等の名簿

◆本部

会長	太田 勝 視
副会長(福岡市)	阿部 二三子
副会長(北九州市)	西岡 幸 則
副会長(福岡)	釜瀬 計
副会長(北九州)	日高 孝 一
副会長(北筑後)	矢野 俊 一
副会長(南筑後)	安 徳 和 幸
副会長(筑豊)	西園 雅 幸
副会長(京築)	尾崎 和 人
副会長(高校)	井上 善 隆
副会長(各県)	角 正 武
副会長(女性部)	竹井 久美子
副会長(本部)	谷 友 雄
幹事長(本部)	田中 和 隆
副幹事長(福岡)	西田 剛 信
副幹事長(北九州)	大竹 ひとみ
副幹事長(北筑後)	矢野 俊 次
副幹事長(南筑後)	鶴 欣 二
副幹事長(筑豊)	内 園 雅 浩
副幹事長(事務局)	鍋島 直 明
副幹事長(事務局)	笠 宏 照
副幹事長(事務局)	肥 後 弘 美
副幹事長(事務局)	中島 健 次
書記	執行 利 雄
書記	島 添 幸 治
会計	穴井 仁 人
会計	古賀 真理子
事務局	魚住 笑 子
事務局	安部 真裕子

◆会計監査

福岡	因 征四郎
北九	平山 志
筑豊	立和田 正 美
筑後	猪口 有 三

◆幹事 ◎：部長 ○：副部長

組 織 部	福岡市	小 崎 俊 司
	北九州市	多久和 潔
	福岡	古藤 浩 二
	北九州	◎垂水 隆
	北筑後	香月 浩
	南筑後	馬場 英 二
	筑豊	○國本 裕 介
事 業 部	京築	宮内 裕 美
	福岡市	大 戸 和 廣
	北九州市	井上 勝 美
	福岡	高木 陽一郎
	北九州	○野 副 秀 二
	北筑後	大神 哲 和
	南筑後	坂本 延 生
広 報 部	筑豊	山本 稜
	京築	◎小林 正 尚
	福岡市	岩下 優 子
	北九州市	江口 恵 子
	福岡	菊池 正 男
	北九州	高宮 久 生
	北筑後	◎上野 幹 久
事 務 局	南筑後	○横大路 智 毅
	筑豊	江藤 涼 子
	京築	入江 勝 美

◆大学支援委員会役員

委員長	今 林 久	
副委員長	松井 明 子	中島 幸 男
	山本 直 俊	清武 輝
事務局長	松岡 賛	杉下 守
	毛利 公 亮	

女 性 部	福岡市	西川 圭 子
	北九州市	◎守田 孝 子
	福岡	○馬場 肇 子
	北九州	久原 真由美
	北筑後	市丸 祥 子
	南筑後	松山 薫
	筑豊	永水 積 子
	京築	泉 恵 美
	高校等	行徳 康 栄
	青 年 部	福岡市
北九州市		桑園 正 憲
福岡		○辻 聡一郎
北九州		中村 芳 雄
北筑後		益永 康 宏
南筑後		○平井 陽 伸
筑豊		上杉 直 昭
京築		馬場 貴 裕

◆支会・支部長

福岡市	支会長	中村 親 良
	幹事長	杉山 大 樹
北九州市	支会長	高木 眞
	幹事長	倉方 寿 士
福岡	糟屋	折居 邦 成
	糸島	木村 英 樹
	筑紫	藤井 浩 彦
	宗像	水崎 浩 克
	大学	笹原 浩 仁
	遠賀	矢野 真 也
北九州	中間	山中 栄 夫
	鞍手	林 進一郎
	直方	與古光 宏
北筑後	朝倉	吉田 英 雄
	小郡三井	高畑 彦 彦
	浮羽	柳瀬 浩 三
南筑後	久留米	野田 明 良
	三潁	牟田口 達 朗
	柳川みやま	永田 統 計
筑豊	大川	今村 通 博
	八女	東 博 臣
	大牟田	福永 嘉 治
京築	嘉穂	内藤 正 登
	飯塚	松原 潔
	山田	古賀 修 治
京 築	田川市	窪田 睦 朗
	田川郡	川上 三千夫
	京都・行橋	金子 守 久
県立高校	築上・豊前	中村 博 教
	支会長	城戸 英 敏
	幹事長	木村 賢 二
佐賀県	支部長	青木 一 記
	事務局	白水 久 夫
宮崎県	支部長	南中道 隆
	事務局	大久保 朋 広
長崎県	支部長	中原 弘 之
	事務局	並川 和 彦
山口県	支部長	重枝 良 明
	事務局	町田 英 利
熊本県	支部長	岩下 佳 史
	事務局	岩下 佳 史
大分県	支部長	岩尾 亮
	事務局	伊 東 伸一郎

事業実績

令和4年12月現在

<b>4月</b>	5日(火) 大学入学式
	16日(土) 会計監査会
	29日(金) 第47回定期総会
<b>5月</b>	15日(日) 幹事会/支会幹事長会
<b>6月</b>	1日(水) 大学開学記念日
	4日(土) 久留米支会総会
	11日(土) 宗像支会総会
	24日(金) 直方支会総会
	25日(土) 北九州市支会役員会・拡大支会長会 (書面決議) 筑紫支会、遠賀支会、鞍手支会 朝倉支会、浮羽支会、南筑後地区支会、三潁支会、柳川・みやま支会、大川支会、田川郡支会 山田支会(中止)
<b>7月</b>	3日(日) 広報部幹事会
	23日(土) 役員会/幹事会
	25日(月) 小郡・三井支会総会
	28日(木) 未来奨学金授与式
<b>8月</b>	7日(日) 夏期研修会
	20日(土) 青年部長会 県立学校・高校支会総会
	26日(金) 糸島支会総会(中止) 中間支会総会(中止)
<b>9月</b>	3日(土) 糟屋支会総会(中止、書面決議)
	20日(火) 大学卒業式・修了式
<b>10月</b>	15日(土) 北九州地区拡大支会長会
	16日(日) 広報部幹事会
<b>11月</b>	12日(土) 北筑後地区拡大支会長会 京築地区城山会総会・研修会
	19日(土) 福岡地区拡大支会長会
	23日(水) 北九州市支会総会
	30日(水) 直方支会研修会
<b>12月</b>	3日(土) 南筑後地区拡大支会長会
	4日(日) 役員会、幹事会
	9日(金) 糸島支会青年部研修会
	10日(土) 筑豊地区拡大支会長会
<b>1月</b>	11日(水) 大学支援委員会
	20日(金) 大分県支部役員会
	21日(土) 宗像支会新年若手会員激励の会
	22日(日) 役員会
	27日(金) 顧問会
	28日(土) 佐賀県支部役員会
<b>2月</b>	4日(土) 各県支部交流会
	5日(日) 新年の会(令和5年度に延期)
	26日(日) 支会長会
<b>3月</b>	4日(土) 学生・新卒・若手会員情報交換会
	24日(金) 大学卒業式・修了式

彫塑



「記憶を留める装置」木彫  
平成12年卒 世良 伸幸  
(高校支会)



「語らい」日本画  
昭和43年卒 瀧石 龍國  
(福岡市支会)



「高きを求め」油絵  
昭和38年卒 渡辺 秀幸  
(久留米支会)



「仁和寺観音堂 千手観音」  
昭和46年卒 隈部 敦子  
(福岡市支会)

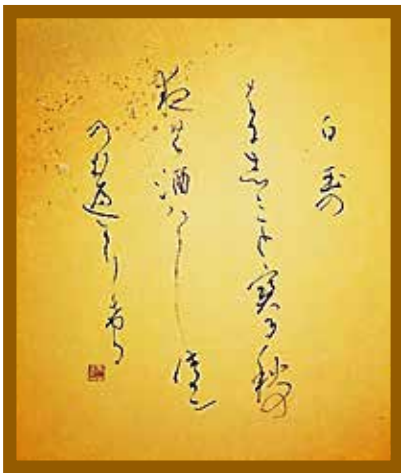
写真



「出番だよ」油絵  
昭和47年卒 平川 雅子  
(福岡市支会)



書



昭和61年卒 日浅 俊子  
(北九州市支会)

「白玉の齒にしみとほる秋の夜は  
酒はしずかに飲むべかりける」  
(上野)

川柳

昭和27年卒 野片 義博  
(柳川みやま支会)

お互いの棘抜きあって菊日和  
鍋底に人生しかとこびりつき  
肩車父の背高く山遠く

俳句

昭和32年卒 西江 和子  
(八女支会)

枝先の氷花となりて冷える朝  
ゆすら梅実り介護の日は続く  
葉桜にやどり木育ちまん丸し

編集後記

二〇二二年は、コロナの変異株による感染拡大に併せ、ロシアによるウクライナ侵攻、さらには現実味を帯びる中国による台湾侵攻など、一挙に世界情勢が緊迫した年でした。  
秩序ある平和な世界が過去のものとなり、わが国の国力の劣化も懸念される今日、これからの学校教育において子供に育てるべき大切なものは何か、国の将来を論じ合うことも重要な課題となっております。  
広報部では、三年ぶりに編集会議を開き、誌面の充実に努めました。会報誌を通じて会員の絆が一層深まることを願っています。